

# 松阪市子ども支援研究センターだより

松阪市子ども支援研究センター 〈TEL. 26-1900 FAX. 26-1901〉

E-mail:kyo.div@city.matsusaka.mie.jp <http://www.city.matsusaka.mie.jp>

松阪教育支援センター「鈴の森教室」「三雲やまゆり教室」

〈TEL 26-1900 FAX 26-1901〉 E-mail: suzunomori@matsusaka.ed.jp

## 子どもの「好き」を大切に！

11月も下旬になり、鈴の森公園の木々も落葉し、寒さを感じる季節となりました。それぞれの学校・園では、様々な学校行事等お忙しい日々をお過ごしのことと存じます。

さて、皆さんは若宮正子さんという女性をご存知でしょうか。若宮さんは、82歳の現役プログラマーとして活躍してみえます。81歳でプログラミングの勉強を始め、わずか半年後にゲームアプリ「hinadan」を開発してしまったという人物です。「hinadan」というゲームアプリは、2017年2月にAppleから配信されたもので、雛祭りの雛壇に男雛や女雛を正しく配置するというシニア向けのシンプルなゲームです。「hinadan」がCNNに取り上げられ、若宮さんは、6月にはAppleの主催する開発者イベントWWDCの基調講演にゲスト出演。そして2018年2月、ニューヨークの国連本部の会議にも招かれ、堂々と英語でスピーチを行われたそうです。プログラミングの経験が全く無い若宮さんが、82歳という年齢でゲームアプリを作ることができたことは、ご本人の努力と前向きな生き方があってのことであり、それは本当に素晴らしいことだと思います。

ある教育雑誌に、私たち教職員にとって参考になる若宮さんの記事が掲載されていました。それによると、若宮さんは学校の先生にお願いしたいこととして、「子どもの“好き”をたくさん増やして社会に送り出してほしい。」「子どもがその分野に興味を持てるかどうかは、先生の教える力次第だと思うので、先生自身が好奇心を持って、子どもたちに熱く語ってあげてほしい。」ということ述べていました。また、「これからは人生100年の時代です。先生方が“好き”という小さな種を子どもたちにたくさん植えてあげたら、長い人生の中で、確か先生はあんな話をしていたなと思い出して、次につながっていくのではないのでしょうか。」と話されています。子どもたちが様々なことに興味を持ち主体的に学習に取り組めるよう、日々の教育活動に取り組んでいけたらと思います。

## プログラミング教育について

新学習指導要領では、全ての小学校においてプログラミング教育を実施することとなり、各校において教育課程内に適切に位置づけることが求められています。また、中学校においても、教科を横断してのプログラミング的思考が求められるところです。

松阪市教育委員会としましても、昨年度から「やまゆりプロジェクト」を実施し、希望する学校に対して一定期間タブレット等のICT機器を貸し出し、各教科等の目標を達成するための効果的なICTの活用について、取り組みをお願いしているところです。現在5期目を迎え多くの学校に実践していただいています。また、プログラミング教育については、子どもたちが興味・関心が持てるような教材の充実を図っています。実践を希望される学校は、ぜひご相談ください。

(野田 幸範)

## 研修講座報告その4 ～研修講座の様子をご紹介します！～

### A - 2 音楽

「新しい学習指導要領、音楽授業をこう変える！～子どもが授業でキラキラするように～」

講師 高倉 弘光 先生

新学習指導要領における内容の構成（歌唱、器楽、音楽づくり、鑑賞及び共通事項）等について解説いただくとともに、グループワークによる実技を通して楽しく音楽を学ぶことができました。



### B - 1 2 生徒指導Ⅱ「不登校児童生徒へのかかわりにあたって」

講師 森川 泉 先生

不登校児童生徒の心をどう捉えて、どのような支援をしていくとよいのかについてご教授くださいました。また、受講者が聞きたいことや日頃悩んでいることについて、一つ一つ丁寧に答えていただきました。



### B - 1 4 学級づくり 「思春期のライフスキル教育」

講師 嶋田 祐子 先生

ライオンズクエスト ライフスキル教育プログラムの内容や手法について、グループ活動を中心にさまざまな体験をしながら受講者がともに考え、気づきながら学ぶことができました。



### B - 3 学力向上Ⅱ 「学力向上のための様々な授業方策」

講師 玉置 崇 先生

講座や模擬授業から、授業づくりのポイントを具体的に分かりやすく教えていただきました。また、落語家としても活躍されている玉置先生の話術に、受講者も引き込まれ、学びを深めることができました。

